

新基本構想策定方針（案）

起草委員会

新基本構想の構成

現行基本構想の構成と同様とする。

- 1 策定の趣旨
- 2 都市像
- 3 施策の基本方向
- 4 基本構想の推進

起草にあたっての基本的視点

1 策定の趣旨

検証作業等を通して得られた次のような時代認識を踏まえた内容とする。

- ・人口の減少及びその構成の急激な変化に伴う、市民生活や都市形成への影響の深刻化
- ・低炭素社会の実現を目指す国際的な機運の高まり
- ・成長するアジア諸国のパワーを東北の成長につなげる、経済・産業・交流拠点としての役割の増大
- ・まちづくりの主体や協働の取組の多様化と相互連携の必要性の高まり
- ・将来への可能性を開く人材育成の重要性の増大
- ・都市インフラの整備から維持管理へのシフト
- ・国・地方を取り巻く財政制約の拡大

2 都市像

現行基本構想の都市像の4分類は、仙台の歴史的蓄積としての「健康都市の風土」、「杜の都の風土」、「中枢都市の機能」、「学都の知的資源」から導かれたものである。この歴史的蓄積は現在でも仙台の特長を示しており、今後21世紀中葉に向けてさらに磨きをかけていくべきものであると考えられることから、新基本構想においても、こうした分類を念頭に議論を進めて行きたい。

人口減少、少子高齢化、経済の成熟化などがより強く意識される新基本構想においては、都市像を実現する原動力として、仙台が誇る強みである「行動する市民力」により、仙台固有の資源から新しい価値を創造していくことの重要性を明確に打ち出す必要がある。

現行基本構想において都市像を定めるにあたり基調に据えるものとして示されている「市民主体の創造的な都市づくり」については、新基本構想においてより一層重視すべきであり、別添図1及び図2に記された内容を盛り込みつつ、特に、「行動する市民力」をどう引き出し、どう育むかについて検討する必要がある。

こうした考えを基調に据え、さらに創造的な都市づくりをどう進めるのかについて、別添図 3 のような市民が活動を通して学び育つ仕組みなど動的な要素を取り入れながら記載する。

都市像については、これまでの都市像の変遷や議論の中でピックアップされたキーワード（別添図 4 参照）を踏まえたものとし、かつ、市民の目線で、目指しているのはどういった都市なのか、より実感の持てる表現とし、さらに、東北と仙台との関係性を意識した内容となるよう検討する。

3 施策の基本方向

都市像に沿った形で、新しい時代認識（別添資料 1 参照）を踏まえ、各項目の記述の見直しを行っていく。

なかでも、（１）（地域社会の形成に関する記述）（２）（循環型都市づくりに関する記述）（３）（都市構造の形成に関する記述）については、時代状況や実態に即したより効果的な施策につなげるため、体系の組み替えを含めた議論を行っていく。

4 基本構想の推進

「行動する市民力」を生み出し、育てていくための具体的な都市経営の基盤とそのあり方について議論を行う。その際、まちづくりに関わる各主体の役割分担を明確にするとともに、特に市役所について政策形成過程における市民参画のあり方に関する議論を深めることとする。

また、総合計画体系全体を視野に入れ、可能な限り市民参画が図られるよう、目標設定やフォローアップの手法についても議論を進めることとする。

今後のスケジュール

新基本構想策定方針に関して、審議会での審議・了承を経た後に、基本構想の具体的な記述について、起草委員会において議論を行う。

新基本構想中間案については、起草委員会において原案作成の上、平成 22 年 5 月を目処に審議会での議論を予定している。

以 上